

102名の卒業生が巣立ちます

風を帆に受け走る船は、向かい風にも前に進むことができるそうです。追い風のように目的地に向かってまっすぐに進むことはできませんが、帆の向きによっては斜め前に進みます。また帆の向きを変えてやると反対の方向へ斜め前に進みます。これを繰り返すとジグザクではあるけれども、向かい風ではあっても前に進むことができるそうです。

今年はまさに、最初から最後まで向かい風が強く吹いた1年でしたが、たとえジグザグであっても力を合わせ前に進むことができた卒業生であったと思います。これから先、いつも追い風ばかりではありません。向かい風という試練にあった時、ただまっすぐに風を受け後ろに下がったり、逃げたりあきらめたりするのではなく、帆の向きを定め前に進む力に変えていってほしいと思います。

6年生のみなさん、卒業おめでとうございます。自分の進むべき道を考え努力してください。これからの活躍を楽しみにしています。

6年生の保護者の皆様、これまで本校教育に深いご理解と多くのご支援をいただき、ありがとうございました。



震災から10年の高校野球

鳥取県代表も出場する春の甲子園が、卒業式がある3月19日から始まります。春の甲子園の選手宣誓で今でも心に残っている場面があります。それは今から10年前、震災が起きた次の年に開かれた春の選抜で石巻工業のキャプテンが選手宣誓をした場面です。石巻といえば東日本大震災で大きな被害があった地域です。その地域のチームが選手宣誓を引き当て



ことに、何か運命のようなものも感じました。復興がなかなか進まない中、石巻工のキャプテンは、目まぐるしい態度で、言葉を一言ずつ噛み締めながら爽やかな笑顔で高らかに宣誓しました。

「日本中に届けます。感動、勇気、そして笑顔を。届けましょう、日本の底力、絆を」

そして、東日本大震災から10年経った今年の選手宣誓が、同じ宮城県の仙台育英高校に決まりました。仙台育英のキャプテンは「コロナで苦しんでいる人がたくさんいます。昨年、コロナ禍で春夏の甲子園が中止になり、憧れの甲子園に立てることを思えば、「こんな経験ができるのは自分だけ。これは運命だ」とインタビューで答えていました。震災のあった10年前とは状況が違いますが、コロナ禍の中、まさに日本の底力、絆を見せるときだと思えます。仙台育英のキャプテンがどのような選手宣誓をするのか楽しみにしています。